

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791000021		
法人名	社会福祉法人憲寿会		
事業所名	グループホームかねぐすく		
所在地	沖縄県糸満市字兼城871番地1		
自己評価作成日	平成27年9月21日	評価結果市町村受理日	平成27年12月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4791000021-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェンツ
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成27年 10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、広い駐車場を所有し、敷地面積も広く、遠くに与座岳、集落を見渡す最高の場所に位置する。階下にはデイサービスを併設。職員協力体制を取りながら、母体施設との合同行事や季節に即した活動、手工芸、作品づくりにも盛んに取り組んでいます。毎年恒例の兼城ハイツ祭り、糸満市パネル展、社協チャリティー講演、福祉職員スポーツ大会など、地域行事にも積極的に参加を行い交流を図っている。又、開設者はじめ職員研修、各種認知症ケアの勉強会など、サービスの質向上に努めています。利用者様の安心と安全面の観点から夜間の勤務職員を2名配置している。今後も、家庭的な環境を大事に、地域の皆様から信頼のある施設運営に職員一丸となって努めてまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設4年が経過し、掲げた5項目の理念の実践に取り組んでいる。理念の一つ「一人ひとりの個性を大事に支援」は、利用者に直に意向を聞いたり、把握が困難な利用者は表情や仕草、選択できる様な声かけでコミュニケーションを図り、更に、利用開始時の利用者の声も参考に意向に添える支援に繋げている。利用者の健康管理は、看護職の配置や協力医療機関等との連携で支援している。利用者の外出したいの意向を管理者は書類等の配布、買い物、食事の受取等の機会を設けて応えている。行政側主催の、地域福祉関連事業所等が協働で参加できる事業が定期的に開催され、パネル展には、利用者と職員が数か月かけて大作品を完成させ出展している。事業所内には出展作品が数点あり、利用者が来訪者にも見てほしいと作品の説明を職員に促す様子も見られ、利用者にとっても毎年大作を完成させる事は、満足感や達成感に繋がる機会となり、今後の継続にも期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日:平成27年11月19日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境、個性を大事にしながらの思いで皆でつくった理念は室内に掲示し、誤った対応や言葉遣いが気になる時など、会議や日々の申し送りで確認し合う。	開設時に理念の作成に関った職員が、日常的なケアの場面で新任職員等への助言や注意喚起等に努め、理念の実践に繋げている。理念は申し送り等で振り返り、管理者が実践に向けた姿勢を言葉やケアで示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の夏祭りや行政主催するパネル展出品、ハーレー見学などに出かけている。又福祉体験学習の受け入れや敬老会、誕生会行事等では、園児、サークルボランティアの慰問などもある。	地域の行事等は自治会便りで把握し、利用者や職員が祭り等へ参加して交流している。事業所近隣の住民や、階下デイ利用者から野菜の差入れを受けている。ボランティアの受入や、デイとの合同誕生会には、地域の保育園児の訪問があり一緒に過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	沖縄県グループホーム連絡会加入し、世界アルツハイマー月間啓発活動による市民へのチラシ配布。医療機関のケースワーカーやケアマネジャーより入居の相談、見学の問い合わせがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月1回、年6回開催している。利用者の生活状況や行事、職員研修の報告が主であり、もっと深い意義のある会議にできるようにしたいと思っています。	利用者や家族、地域、行政が参加して会議は定期的に開催し、事業所の運営状況や、防災訓練、外部評価等を報告している。委員間の意見交換等の経緯は結果報告のみで議事録に記載され、ヒヤリハット報告書も作成しているが会議資料として活用されていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護担当者への情報報告や運営推進会議の案内状の配付、保険更新や研修会参加について連絡調整を行っている。	行政から福祉祭や老人週間パネル展等の案内を受け、祭への参加や、利用者職員共同製作のパネル作品を出品し協力している。介護保険制度改正の研修の案内を受け受講している。利用者の保険更新時や会議案内等で定期的に行政担当課を訪問している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室や玄関には施錠はせず、帰宅願望のある方については、常に所在地の確認と声かけ見守りに対応しています。身体拘束研修会には職員参加をしている。	事業所の方針「身体拘束をしないケア」は配布資料等で明示し、事業所内にも掲示して周知を図っている。利用者の状態に合わせ、センサー使用から見守り・巡回等に移行した事例や、落ち着かない状態を専門医と相談し、内服薬を調整した利用者もいる。身体拘束等について毎年研修が計画され職員は受講している。	

沖縄県(グループホームかねぐすく)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	GH連絡会においても、認知症研修、虐待防止についての勉強会が実施されています。参加することで職員の意識統一が図れるようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、該当者はいませんが、職員の研修受講により知識の向上に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族様への介護に対する不安感を抱かないよう、契約時には利用料の説明、サービスに関する事や緊急時対応について同意を求めるとしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置していますが、ほとんど利用がなく、利用者との談話や表情などから把握できるようにし、自宅へ利用料の請求書や書類を届ける際に近況報告を行い、要望や意見を伺うようにしています。	利用者から直に意見・要望の声があり、おやつ作りや外出の機会を増やしている。計画書更新時毎のアセスメントで、利用者や家族の意見、個別の意向等を把握している。家族の提案で入浴時の「シャワーキャップ・耳栓」等の使用に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議、担当者会議等を通して、業務改善や物品の購入等についての意見、要望等の提案ができるようにしている。	職員は毎月の会議や、日常ケアの中で意見等を述べている。「利用者には食器が使い辛い様子」の職員意見は、法人内で検討され自助具使用で改善している。職員は資格取得に係る受講料や勤務調整等の支援を受けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	提案や業務改善など意見を聞く機会を設け、職員の資格取得や昇格昇給の面についても配慮があり、働き甲斐のある職場環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全体会議での医療講話や認知症研修、GH連絡会研修、各種勉強会や資格取得に向けての受講を希望する多くの機会に恵まれている。		

沖縄県(グループホームかねぐすく)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡会に加入し、認知症研修や啓発活動、又、糸満市福祉施設職員スポーツ交流会などを通して、情報の共有が出来るようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境が変わる事に対する不安感が軽減できるように、職員の気づきや対応についても、利用者様の良き理解者となり、寄り添ったケアに心がけるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が安心して介護をゆだねられ、面会の際にも気兼ねなく意見や要望が言えるような雰囲気づくりに配慮しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者やご家族様が気づかない事がある場合など、ケアの必要性について助言を行いながら、より良い支援の方法と一緒に考えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に近所のスーパーやコンビニに買い物に出掛けたり、食後の片付け、洗濯物の整理やおやつ作りを楽しんでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様、家族様と関係を密にしながら、時には架け橋となり、共に支え合える支援ができるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさと訪問では農連市場や天ぷら屋、商店に出掛けることもある。幼なじみがデイサービスに来た時など、交流が持てるようにしています。	アセスメントで「社会との関り」の情報を収集し、ふるさと訪問や元の職場、家族の居住地周辺等に出かけている。家族の協力で、美容室の利用や、定期受診後に自宅へ戻る利用者もいる。日常的に外出し、馴染みの店での買物等を支援している。	

沖縄県(グループホームかねぐすく)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生会、おやつ会、余暇時においても、個性を大事にしながら、利用者同士の交流ができるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療ニーズが高く重度化になった場合は、医療機関や母体施設、他施設への紹介などを行い、利用者や家族様が不安にならないよう退居後も訪問により状況を見守るようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や知人より情報収集を行い、おやつ作りや調理の下ごしらえ、衣類の整理などを行っている。疎通が難しい方は表情やしぐさなどから把握できるように努めています。	利用者4人からは直に聞き、残りの利用者は仕草や表情、ジェスチャーを交えてコミュニケーションを図り、思いや意向の把握に努めている。「外出」の意向が多く、管理者は外出の機会を増やして利用者を同行させたり、「映画を観たい」の声に応え、一緒に映画観賞に出かけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様や知人が訪ねて来た時には、会話の中から生活歴や既往歴、趣味嗜好などについて確認し、今後の生活支援に活かせるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の変化や心身の状態、生活パターンが把握できるように、日々の各種記録表を作成。日常の健康管理に努めるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護保険更新時や身体状況の変化時には、本人、家族、職員担当者会議を開催し、計画書の見直しを行っている。ニーズの把握、定期的にモニタリングを行い計画書に反映できるように努めています。	利用者の個別計画は、サービス担当者会議で利用者や家族の意向等を把握し、看護や介護職も会議に参加して作成している。利用者の計画に沿ったサービス実施状況の確認ができず、また、カンファレンスやモニタリングの記録がなく、見直しも更新時のみとなっている。	利用者や家族の意向・要望を反映した計画書に沿ってサービスを提供するには、実施状況の記録やカンファレンス、モニタリングの実施と記録、状態に合わせた計画の見直し等が求められるので、検討が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、ケース日誌、各種記録表や日々の申し送りにおいて、職員間で情報共有しながら統一したケアの提供を行い、計画書の見直しを行っています。		

沖縄県(グループホームかねぐすく)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の要望により、階下のデイサービスで一時、体操や交流、行事等の関わりが増え、利用者の喜び、生活意欲の高まりを感じることがあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源についての利用には至っていない為、資源の把握に努め、利用者の生活活性化に繋がるようにしていきたいと思っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者はかかりつけ医を持っており、通院時には本人の心身の状態変化や生活変化について主治医へ情報提供を行います。受診については、家族様同行や送迎対応など、柔軟に対応できるようにしています。	利用者は入居前のかかりつけ医を定期受診し、受診は家族対応を基本としている。受診時の情報提供は口頭や書面で行い、利用者の状態に応じて管理者も同行し、普段の様子や変化等を伝えている。職員の同行は主治医からも期待され、適切な医療の受診支援に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置があり、定期的に健康チェックを行っている。利用者の急変時には医療機関との連絡調整、職員へ助言等を行う。看護師配置がある事で、職員の負担が軽減できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院療養になった場合は、管理者、看護師でお見舞いに伺い状況把握に努めます。入院中は本人や家族様が不安にならないよう医療スタッフとの連携を密にしながら対応するようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化になった場合は、ご家族様と話し合いを持ち、意向により母体施設、介護老人保健施設への紹介などを行うようにしています。	事業所は重度化や終末期に向けた方針を明確にしている。家族とは、利用者の医療ニーズが高くなった場合や状態変化に応じて家族と話合っている。終末期に向けての研修会や実践報告会には管理者が参加している。日頃の健康管理は看護師の配置で支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED設置。苑内研修、DVDの勉強会を持っていますが、全職員が身に付いているのか不安です。急務であることを踏まえ、勉強会を重ねていきたいと思っています。		

沖縄県(グループホームかねぐすく)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアル、スプリンクラー、防災設備の設置、点検。年2回、消防署立会による昼夜想定での消防訓練実施。地域住民の協力体制には至っていない為、自治会と確認しています。	防災訓練は、消防署の協力を得て夜間想定で2回実施している。地域へは、自治会長を通して参加協力を呼びかけているが住民の参加には繋がっていない。また、訓練後に受けた講評や指導について、職員会議で話し合っているが記録になく、災害時に備えた備蓄品の確保も取組が遅れている。	避難訓練等の結果を次回の訓練に活かす上でも、講評等の記録の管理が望まれる。また、地域住民や地域関係者等の協力が得られるよう、訓練日程の工夫や、災害時等に向けた食料等備蓄の取組みも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、人格の尊重を職員は常に意識を持って対応できるようにしていますが、排泄や入浴時の対応の際、同性介助が困難な場合があります。利用者様のことを考えると検討していく必要性を感じます。	職員は理念の「一人ひとりの個性を大事に」を考慮し、利用者が自ら発揮できるよう、場面を設定する等で支援している。例えば、食器の片付け、飾り付け等、利用者の参加を増やしている。職員の気になる言葉かけや対応が見られた時は職員会議でも取上げ、互いに注意することを確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	週1回は選択メニューを取り入れた食事提供。新聞やチラシを見て、食品、雑貨などを買い求めにスーパーや商店に出かけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	沖縄芝居、テレビ鑑賞、ニュースを見る習慣のある方、ファッション雑誌、新聞など、余暇を自由に過ごしている。古典を趣味としていた方は、ベッド上でCDを聴かせると嬉しそう。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪が伸びたら職員にカットをお願いする事もある。日に何度も着替え、汚れた衣類なのか見分けがつかない事も多いので、職員はそっと気づかれないように洗濯に出す。自分なりに身だしなみに気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食、おやつ作りは利用者と共にしています。昼夕食は母体厨房より配食で対応。職員も利用者と一緒に頂いています。食後のテーブル拭き、食器洗いなどにも利用者の参加があります。	事業所での朝食作りは、利用者から「何か作りたいねー」の声や食材の買い出し、食事の味付け、食器の片付け等への意欲を引出している。食事は、昼夕食は母体法人の配食を利用し、献立に関しては、月一回の給食委員会に担当職員が参加して利用者の意見や要望も伝えている。	

沖縄県(グループホームかねぐすく)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分記録表で確認できるようにしています。食事形態の工夫。水分を嫌がる方は少量ずつ回数を増やしたり、ポカリやジュース類の好みも合わせながら摂取量の確保ができるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは欠かせません。習慣的に行なえる方、声かけセッティングの必要な方、嚥下障害のある方は舌下ブラシを使用したりして対応しています。義歯は夜間はずして洗浄剤ポリドントにつけて置きます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表で管理。日中はトイレ誘導の実施。夜間は尿パット交換やベッドサイドにポータブルを設置して対応しています。夜間帯にトイレ利用される方の見守り介助。失禁時の対応にも配慮しております。	利用者の数名は自立し、他の利用者も日中はトイレでの排泄に誘導している。排泄時のプライバシーが確保され、排泄記録表で時間を見計らった声かけや、利用者の様子を察知してさりげなく誘導している。夜間のパット使用者には体調や安全面も考慮し、パットの種類等の検討もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	母体管理栄養士の食事献立、日々の水分量の確保、活動支援により便秘解消ができるように対応しますが、殆どの方が処方薬に頼っているのが現状です。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	病院受診や外出のタイミングを見ながら、入浴したり、散髪後に入浴を行う事もあります。基本的には一日おきに入ります。同性介護が望ましいのですが、困難な事が多く、家族様には了解により対応しています。	浴室と脱衣室はアコーディオンドアで仕切り、浴室内の床は温泉風に、壁はシールで環境の工夫をしている。脱衣所は赤外線ヒーターで温度調節が可能で手すりをつけている。入浴は個々に沿った支援を行い、入浴を拒否する方は、階下デイの広い浴室に案内し、環境を変えて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全個室で居室には日差しを遮るカーテンの設置。冷暖房の完備、電動式ベッドの設置がされており、誰にも気兼ねなく自由に過せるようになっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関、調剤薬局からの薬の説明書を参考に飲み方や副作用の内容等を確認できるようにしています。主治医より薬の変更があった場合など、薬剤師からも次いで助言等を頂く事が多いです。		

沖縄県(グループホームかねぐすく)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味や心身機能の状態によって、役割を担い、自立支援に向け、生きがいと自信に繋がるように対応しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	サンエー、マックスバリュ、カインズホームやダイソーが近くにあり、食品、日用雑貨などの購入で出かけることが多い。地域行事の参加見学など、たまには映画やカラオケ、外食などを楽しんでいる。	利用者は外出の機会が多く、家族と定期受診後自宅へ、馴染みの美容室、法人施設へ食事の受取りや買い出し、利用請求書を管理者と毎月届ける等で出かけている。重要事項説明書に年間行事計画を記載し、初詣、桜見学、浜下り、祭り、ハーレー見学等季節に応じて外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的に家族管理。必要時は、家族に購入の依頼をしています。現段階ではお金を持っていないと不安がる方はいませんが、今後は対応する利用者もあるかもしれません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が傍に付き添って電話の対応をすることがあります。暑中見舞いや年賀状を家族に送ることはありますが、手紙のやり取りをされる方は残念ながらありません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は明るく、リビングは利用者と職員がゆったりと過ごせる空間になっている。室内には季節感が漂う装飾や作品が飾られ、アットホームな環境づくりに努めている。	共用空間の居間や台所、食堂や和室があり、全体が見渡せる作りとなっている。ソファーに掛けて新聞を読む、折る、洗濯物をたたむ等の作業をする方や、テレビを見ながら過ごす利用者もいる。壁面には利用者や家族、職員合作のパネル作品や季節感を彩った手工芸品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、テレビ、ビデオ、カラオケが楽しめ、利用者と職員と一緒に寛げるスペースを確保。馴染みのある畳間。家族や来訪者の相談室も設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より馴染みの物、使い慣れた物を持ち込む方はごく一部。ベッドやタンス、洗面台の設置がされている為、利用者、家族様は満足されているようです。壁には少しずつ写真や作品が飾られるようになってきた。	居室にはベッドやクローゼット、洗面台と鏡が設置され、加湿器も備えられている。馴染みのテーブルや椅子、衣装ケース等を持ち込んでいる方や、孫の写真や手工芸作品を飾っている方もいる。運営推進会議利用者代表の委嘱状が額入りで飾られ、本人の励みとなっているという居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、浴室やトイレには手すりの設置。室内はバリアフリー。利用者が解りやすいように表示や目印をつけたり、日めくりカレンダー、壁掛け時計、日課表を掲示し確認できるように工夫している。		